



ゴードンのカルバリ



園の墓

聖墳墓教会は、イエス様が十字架にかけられたゴルゴタと、葬られた墓であるとされる土地の上に建てられた教会です。教派の異なる、いくつかの教会が集まり、分担して管理しています。教会の個性も様々で、聖遺物も記念していて、目まぐるしく感じます。一方、この日見学した園の墓は、非常に分かりやすいものでした。四福音書全てにイエス様は「されこうべ」に連行されたとあります。旧市街のダマスカス門を出て、北に少し行った所に、髑髏の形をした岩山があります。そこが 1867年に発掘され、英国キリスト者に管理されているカルバリ(ゴルゴタ)です。その近くのブドウ園だった場所に、石の扉用の溝がある、岩に掘られた横穴の墓地が発見されました。ここを「園の墓」として、イエス様の最期を記念しています。ヘブライ大学の G. Barkay の調査では墓の形は紀元前 8-7 世紀の典型的なもの、溝は 11 世紀の十字軍時代のロバの飲用水のためのものと推定していますので、実際の史跡ではないようですが、「園の墓」は戸外にあり、静かで、花々で飾られたガーデンでもあり、落ち着きます。多くの観光客がイエス様の死を記念するために訪れているそうです。私たち一行の一人が、「あの方は復活なされて、ここにはおられない」(マル16:6)と言われました。その通りですと私は呼応しました。



訪問教会で 一行

エルサレムから西に7.5kmにエン・カレムがあり、バプテスマのヨハネ誕生の地と言われています。ぶどう畑が連なる谷あいの静かな町です。マリアの泉と名付けられた泉から登った所に、マリアがヨハネの母エリサベトを訪問したという記念の訪問教会があります。1955年に完成し、素晴らしいモザイク画がファザードを飾っています。この庭には世界各地から寄せられたマリアの賛歌の額も飾られています。

谷の向かいに17世紀にフランシスコ会によって建てられたヨハネ誕生の教会があります。ここは鄙びた静かな教会でした。祭壇の左の階段を下ると、ヨハネの誕生した洞穴があり、標がはめ込まれています。庭にはヨハネの父、ザカリアの預言の言葉の額が飾られています。

「あけぼのの光が我らを訪れ、暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、  
我らの歩みを平和の道に導く」(ルカ 1:78-79)

最後の見学地はエルサレムから60スタディオン離れたエマオ(ルカ 24:13)と言われる村です。スタディオンの単位が示す距離はユダヤとローマでは異なるようですし、伝説、遺跡もないとのことで、あちこちにエマオと想像される場所があるそうですが、私たちはエン・カレムからさらに西へ20km位行ったエマオにあるトラピスト会ラトルン修道院を訪ねました。この近くにはビザンチン時代の教会の遺跡もあるということです。この修道院の名はイエス様と共に十字架にかけられた「強盗」と付けられています。ひっそりしています。なぜなら沈黙がこの修道院の日課だからです。クレオパともう一人の弟子はイエス様だと気付かずにはいましたが、一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。そして、時を移さず出発して、(ルカ 24:30-33)と記されています。私たち一行も、ここから時を移さず、自分の住む所へ飛んで帰って、イエス様を伝えたいと願いました。

トダー・ラバー(ありがとう:ヘブライ語) シャローム!(ごきげんよう:ヘブライ語)